

			
<p>八基小 家庭で 取り組む アイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのような職業があるのか知るようにさせる 好きな事に目標を作る 夢を持つことは大切という内容を伝える事 たくさんの方に目を向ける 得意な事を伸ばせる環境を作る 好きな事に集中して取り組む時間を作る 体験する 写真などを飾って、イメージする なりたい夢を口にする 夢を話してくれたら全力で応援して、たくさん話をさせて共感する まず、夢を持たせるようにする 何になりたいのかを確認する 好きなこと、興味を持った事を子供と一緒にもっと突き詰めてみる 興味がある事や好きな事、得意な事を伸ばせるように生活する 夢を持ったら、その夢に日付をつけさせる 子供の話聞き、夢を実現させるためには何が共に考え、チャレンジする 今やっていることにがんばって取り組み将来の夢に役立てる 親の仕事の良い所、悪い所話し、他の職業についても一緒に話をする どのような職業があるのか知れるようにし、視野を広くもたせる 子供といろいろ話をし、一緒に経験する 目標を立てて日々努力する 興味を持ったことはとりあえずやらせてみる 将来何がしたいかを話し合う 好きな事に目標を作る どんな職業があるのか、日々の生活の中で教えてあげる 子供の持つ夢に対して、夢を実現するにはどうしたら良いか一緒に考えて考える 夢は大きく、そのためには小さな目標を考え、努力する力、達成感を感じる たくさんの方に興味を持たせ色々な体験をさせる事 将来何になりたいか親子で話ししてみる 一緒に色々なスポーツをしている(可能性を見つげるために) 子供の好きな事を探り、気づきを与える 大人になったとき、どんな自分になっていたかなどを思い描き希望を持つ 将来の夢について話し合う たくさん勉強すれば、努力すればなんにでもなれるよ！と声をかける どんな事でも良いから夢を持たせ、その夢をできる限り家族で応援する やってみたい職業を見つけて、そのためには何が考えか考える サッカー選手になりたいのでボールを使って練習する意欲をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 決められた課題をこなす とにかく習慣になるようにやらせる 好きな教科からやってみる(集中してほしいので) 勉強を後回しにせず、先にやるのが良いという感情を持たせる 短い時間でも姿勢良く、字を丁寧に書けたらほめる 目標を決めて取り組む 自主学习など親が問題を出すなど一緒に取り組む 毎日40分勉強する 決まった時間に終える 夢を実現させるためには、どうやって勉強すれば良いのかを教えて、一緒にやる 食べる、寝る、テレビを見るなど、当たり前にする事と同じ位置に「勉強」をおくように、小さい頃から教え込む 親が「これ」をしている時は勉強時間！とする 学校での授業を振り返り、復習に重点を置いて毎日の勉強につなげる 時間を決めて毎日その時間に始めるようにする 集中出来ないようなら、5分でも良いので、まず始めることを繰り返す 限られた時間の中でしっかりと終わらせる 何時に勉強するか自ら時間を決め、毎日勉強する習慣をつけるように声がけし、うながす 出来る限り一緒に宿題を見てあげる 苦手な教科でもすすんでやってみようながす 学校から帰ったらすぐに取り組む様に 計画を立てて自主学习出来るようにする 毎日の授業も真剣に取り組む 声をかける 良くできたらほめる 遊ぶときと勉強するときメリハリをつける 家に帰ったら夕食までに勉強する 疑問に思った事、分からない事があったら一緒に調べて考える 毎日やった事、出来た事をほめ、認めてあげる 学校のテストが返ってきたときに、毎日がんばっているから良い点が取れるということを話し、ほめる 毎日続ける事が大切だということを伝える 勉強した内容を確認し、チェックしている 資格(検定)試験を受けさせる 子どもたちが勉強しているときはテレビ等を消して、集中できるようにする 勉強したところを見せてもらう 自主勉強などは工夫したノート作成を心がけ、誰が見ても読める字を書く 	<ul style="list-style-type: none"> なるべくいろんな所へ出かけるようにする 色々な事にチャレンジ 興味を持ったと思ったら見守る 様々な経験をしていく中で「夢」が芽生えていくと思うので、とにかく、自分が何事も体験していく 苦手な事にも挑戦してみる やってみたい、やりたい事があったら親に話してやらせてもらう 色々な場所に連れて行って興味を持たせる 少し早いかなと思うお手伝いなどもやらせてみる 何でもとにかくやってみる 取り組んだ事が上手いかわなくても、やった事実を必ず認め、誉める 上手いかいかわからないではなく、「やったか」「やらないか」が大切だと教える 色々な場所に赴き、たくさんの人と関わりながら様々な体験ができるようにする 興味がありそうな分野を提示する 家の手伝いをなんでもやってみる 興味を持った事があったら、なんでもチャレンジし、成功した時などはほめてやる気を伸ばす(簡単な事からでも) 休日にはいろんな場所に行って普段出来ない体験をさせてあげる 家の手伝いや興味のあることをなんでもやらせる 興味の有無に関係なく、色々な体験をさせ、それを通して夢について考えさせる 見守りながらなんでもやらせてみる 一緒にいろいろな経験をさせる いろいろなことに挑戦し、たくさんの経験をさせる なんでもやらせてみる 見守る ほめる 一緒にやる 花を植えたり、野菜の収穫をする 地域の行事に参加する 家の仕事の手伝いをする 家族と一緒に体験する 好きな事、苦手な事でも挑戦出来るよう、親も背中を押してあげる 色々なところに連れて行く 家で野菜作りを体験させて、食べ物が出来る過程を自分で体験することで好き嫌いのない子に育てていけるようにする 体験の手紙や誘いなど積極的に受け入れて興味を持たせる なんでも自分でやってみる、やらせる 危険な包丁やカッターなど使い方によっては人を傷つける物だと知ってもらうために、触らせないのではなく、あえて使わせて正しい使い方を教える 興味のあることは進んで体験させる 家が農家なので、時々泥を思いきりいじらせる 色々なことにチャレンジし、自分を磨く 子供が興味を持った事は危ない事以外やらせてみる

※「6つの誓い 家庭で取り組むためのアイデア」について、たくさんご意見をいただき、ありがとうございました。

6月の懇談会でまとめた「家庭で取り組むアイデア」を含め、各ご家庭で、実践できそうな事がありましたら、取り入れてみましょう。(八基小学校 深谷の子「6つの誓い」推進委員会)

			
<p>八基小 家庭で取り組むアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人、通りかかった人にあいさつをする ・大人が見本を見せる ・子供から先に第一声が出るようにする ・積極的に声かけをする ・あいさつをしたことで、人と仲良くなれるなどの体験をさせる ・親が子の手本となるよう、進んであいさつする ・あいさつをしたいけれど、どうしても言えない事もある、そんな時は、えしゃく、目を合わせる、笑顔でいるという事から始めてみるのも良いと思う ・機嫌が悪くても笑顔であいさつする ・家庭の中でも「おはよう/ありがとう/ごめんなさい」の当たり前の事をすすんであいさつする ・大きな声で親があいさつする ・見本を見せて、子供にやらせる ・大人が先にあいさつし、まねさせる ・親が見本となり声をかける ・誰にでも元氣にあいさつする ・家族でもあいさつし合う ・声がかげられない距離にいるときは頭を下げる ・あいさつをする人もされる人も気持ちが良いと感じられるよう、親が手本となる ・家の中でもきちんとあいさつする ・中学生のしっかりしたあいさつを聞いてまねしている ・人の目を見てあいさつできるようにする ・家族の中でもあいさつをし合い、コミュニケーションを常にとるようにする ・地域の人に誰でも会ったらあいさつする 	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣づけ ・学校ではとてもきれいにそろえられているので、家でも習慣づけて、出来たらほめる ・くつの脱ぎ方を教える(例: 後ろ向きになってくつをそろえたまま脱ぐように教えている) ・積極的に声かけをする ・「きれいにそろっていると気持ちいいね」と子供の中にすり込む ・家族全員で心がけ、声をかけ合って習慣化する ・くつをそろえることは、自分の気持ちが整い、幸運の近道だと教える ・見本を見せる ・出来ていないときは注意する ・後ろ向きでくつを脱ぐ ・くつがそろえられてすごいね、今日はスッキリ気持ち良いね。と具体的にやった行動をほめる ・脱いだくつを確認して、直す習慣をつける ・親が見本になる ・気付いたら他の人のくつもすすんでそろえる ・毎日やらせて身につける ・履いているくつに感謝し、いつもきちんとそろえる ・玄関を掃除し、きれいになったときの心地よさを伝える ・履かないくつはしまっておく ・当番を決めて子どもたちでそろえられるようにする ・帰宅を玄関で迎え、その場でそろえてから上がるように見守り、ほめる(定着するまで) ・使うくつ以外はしまう、帰ってきたときはそろえる ・一緒に玄関から入り、くつをそろえないときは「6つの誓いは？」と声をかけている ・くつ箱をきれいにする ・くつが乱れているのに気付いたら直ぐに直すようにする ・帰ったら履くくつだけを玄関に並べておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうが直ぐに言える子に！ ・自分が言われて傷つく事は、人に言わない ・自分が言われて嫌な事は言わないように教える ・親が丁寧な言葉を使う(子供が親の言葉を真似していると思うので) ・自分が言われて嫌な汚い言葉は使わない ・口にする前に、相手の立場になって考えてみる ・良い言葉を使う ・ごめんなさいより「ありがとう」がたくさん言える子にしたい ・何かあるたびに「～してもらって嬉しかったね/～だと嫌な気持ちになるね」など、子供と確認し合うようにする ・親も子も、常に素直な心で接する ・心に届く言葉を使うようにする ・相手の気持ちを考える ・言葉の意味を理解し、言ってはいけない言葉を使ってしまった時は、頭ごなしにしからず、「その言葉はとても傷つく言葉だから言われたらとても悲しいと思う」と伝え、言わないように教える ・人がいやがる言葉は言わない ・良い所はほめ、悪い所は怒らず話をする ・家族でもありがとうを言い合う ・相手の立場に立って発言する ・友達に対して言って良い事なのか、悪い事なのかよく考えしっかり話す ・丁寧な言葉、気持ちのこもった言葉を使う ・相手の目を見て話す ・心と言葉はつながっているのだから、自分が言われて嫌なことは相手も嫌だということを教える ・言葉の大切さについて親子で話し合う ・家族だからいいではなく、家族だからこそ思いやりのある行動や発言をする事で、友達やまわりの人たちにも出来るようにまず、家族で心がける ・親も言葉に気をつける ・相手の嫌なことはしないようにする ・良い事、悪い事について、なぜダメなのか、なぜ怒られているのかをきちんと説明する(本人が納得するまで) ・心に感じたことを聞き、共感する ・「です・ます」で話す様に心がけさせる ・毎日心のこもった言葉を使う ・他の人の話をきちんと聞く ・人が嫌がる言葉を区別し、きれいな言葉でやりとりできるようにする

※「6つの誓い 家庭で取り組むためのアイデア」について、たくさんご意見をいただき、ありがとうございました。

6月の懇談会でまとめた「家庭で取り組むアイデア」を含め、各ご家庭で、実践できそうな事がありましたら、取り入れてみましょう。(八基小学校 深谷の子「6つの誓い」推進委員会)